

# 特別公開展 ー初めて知る上城戸の外側ー

「一乗谷」は、戦国時代約 100 年間にわたり越前国を治めた朝倉氏の城下町があった場所です。遺跡内を発掘すると城下町の暮らしを物語る様々な道具が出土します。

一乗谷朝倉氏遺跡では、城下町の都市構造を解明するための調査を継続して行っています。平成 25 年度の発掘調査は、城下町を防御する重要な施設である上城戸跡の南に接する場所で行いました。城戸土塁外側で行った調査としては、初めての本格的な発掘でした。

調査の成果として、石列に画された土塁跡や城戸土塁に伴う外濠など往時の様相を物語る遺構を確認したほか、井戸跡からの一括出土品をはじめ、墨書文字が鮮明に残った土師質皿やガラス玉など、貴重な遺物が出土しました。

このたびの特別公開展では、50 点以上にのぼる出土遺物を初公開とし、昨年行った発掘調査の出土品をいち早く公開します。併せて、周辺の状況として近年報告された斉藤（『中山間』110 次）、大門（『埋文 129 集』123 次）出土遺物も展示公開します。

## ○主な展示品



石硯



染付碗・皿



墨書土師質皿



ガラス玉（数珠玉状）

○発掘調査場所・調査平面図



上城戸地区



平成25年度上城戸地区発掘調査平面図(第141次・145次)